

# 第3学年 道徳学習指導案

日時 平成23年 9月 30日(金) 5校時  
学級 3年1組(男子18名, 女子15名 計33名)  
授業者 奥州市立東水沢中学校 小田中 ちぐさ

1 主題名 母の心において 【 4－(6) 家族愛 】

2 資料名 母よりの年賀状(学研「かけがえのない きみだから」)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

本時の授業は、内容項目4－(6)「父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く」に基づいて指導するものである。

自分が在るのは、祖父母や父母が在り、そのかけがえのない子供として深い愛情をもって育てられたことに気付かせる事が大切である。そのことを通して、自分の成長を願い無私の愛情をもって育ててくれた父母や祖父母に対して敬愛の念を深めることが大切である。しかし、中学3年生の時期は自我意識が強くなり自分の判断や意志で生きていこうとする自律への意欲が高まる時期でもある。その反面また親に依存しなければ生活できない自分もいるため、その複雑な心境が親への反抗という形にあらわれることが多い。また、受験期を迎え、親と自分の考えの違いなどに不満を感じることもある時期でもある。そのような時期に、家族を構成する成員相互の温かい信頼関係や愛情によって互いが深い絆で結ばれていることが大切であるということの自覚をもつことが、より充実した家庭生活を築くことにもつながることに気づかせていきたいと考え、本主題を設定した。

(2) 生徒について

明るく秩序をもって生活できる学級である。行事などでは互いに協力し合い、向上しようという集団である。普段の様子や保護者面談を通して、保護者の我が子への愛情を感じる。しかし、生徒の親への反応は様々で、中には教育相談で母への不満を語り、三者面談ではあからさまに親へ反抗する生徒もいた。中学3年のこの時期、自我意識が強くなり、自律への意欲が旺盛になって、家族よりも友達に基盤を置き、父母の愛情を素直に受け止めることができなくなる。また、進路との関わりもあり親との意見の違いのため、反抗が増長している生徒もいる。

そこで、本授業を通して進路選択はもちろんこれからの家庭生活をよりよいものにしていくために、日頃自分を支えてくれる家族について考え、家族の愛情について確認する1つのきっかけとし、家族への感謝の気持ちを持って過ごしていけるように指導したい。

(3) 資料について

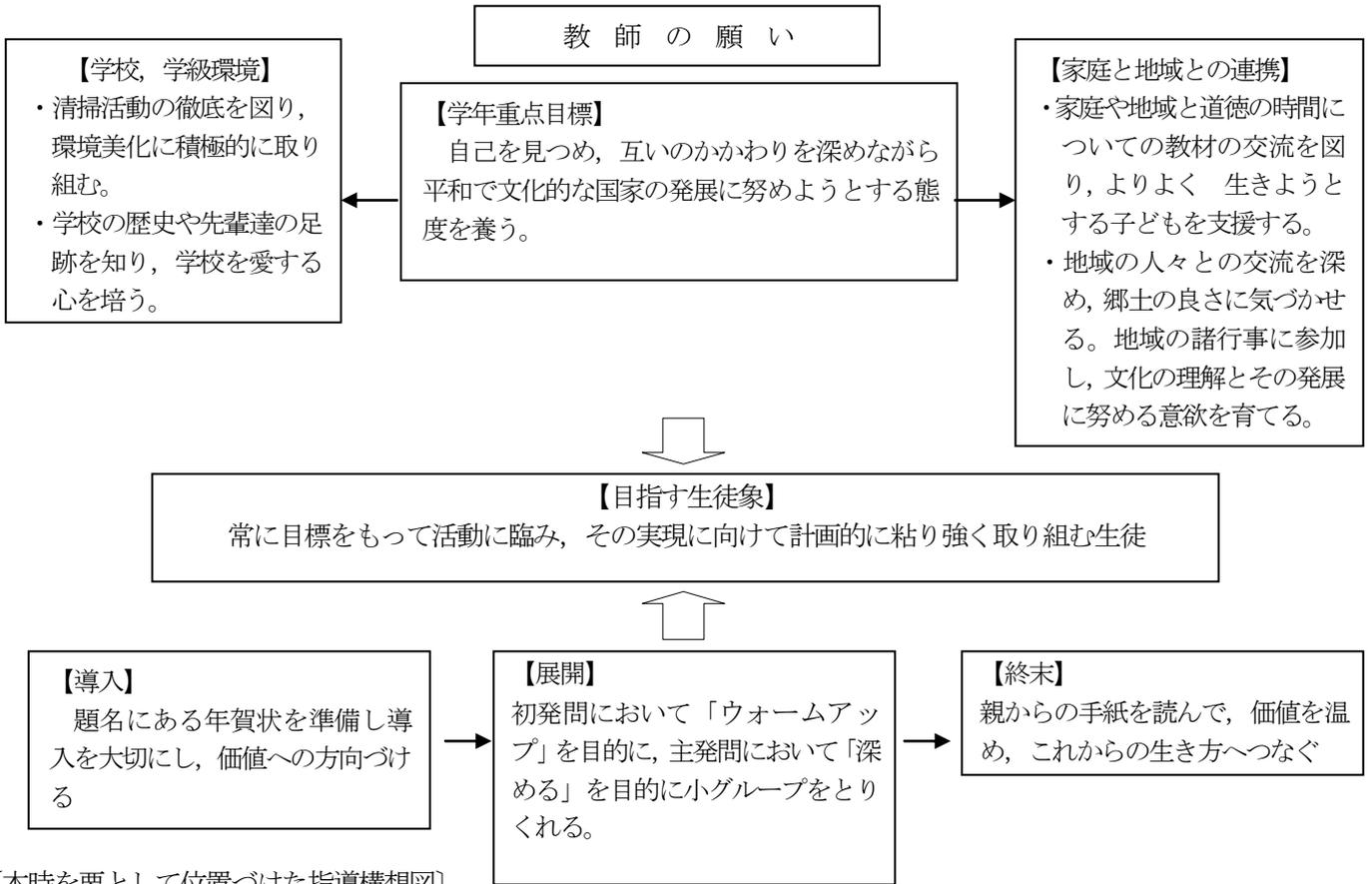
本資料では高校受験を控えた「わたし」が父から市内の高校の受験をあきらめてほしいと言われ、「わたし」の心は大きく揺れ、父母をののしる。重苦しい雰囲気の日々が続くが、元旦に母から届いた年賀状を読んだ「わたし」は母の愛情を感じ、家族への感謝の気持ちに支えられて、立ち直る感動資料である。日々の生活に苦勞しながらも家族もことを思い続ける母の愛情に感謝する「わたし」の姿を通して、父母に感謝する敬愛の念を深め、家族の一員としての役割を果たそうとする思いを共感させたい。

4 研究主題との関連

コの字型を取り入れ、お互いに向き合った学習を取り入れたことで人の顔を見て意見を聞く新鮮さを味わう事で、授業への意欲を高めるようになってきた。また、4人グループを取り入れ意見交流することで「必ず自分の意見を述べなければならぬ」から「人の意見を聞き、それに関して自分の意見を述べる楽しさを味わう」に生徒が変化しつつある。自分だけで「学ぶ」のではなく「学び合う」という学習を通して、現在の中学生に欠けているコミュニケーション能力を育てつつ、かつ道徳教育という特性を生かし「人の意見を聞いて自分の考えを深めていく力」を育てたい。本時では、4人グループを「ウォームアップ」を目的に初発問に、「深める」を目的に主発問に取り入れたい。

5 指導の構想

「父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く」を育成する指導の構想



[本時を要として位置づけた指導構想図]

月	特別活動・体験的活動	道徳の時間	各教科等の学習	日常活動・その他
4月	<p>[学級活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学級通信を通して道徳の様子を親が知り、親子で道徳について話す。</li> </ul>	<p>◇主題名 生きる希望</p> <p>資料名「よしかかってこい」</p> <p>ねらい</p> <p>障害や困難に負けることなく、生きる希望をめざし、粘り強く頑張ろうとする心情を育てる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>日常、三者面談、懇親会などで保護者から生徒の様子を聞くことで、親子関係を把握する。</li> <li>修学旅行説明会、保護者面談を通して、保護者へ「子への手紙」の依頼</li> </ul>
8月	<p>[朝読書]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>芥川龍之介の「杜子春」を朝読書の時間に読み、母が子を思う姿が描かれている本に触れる。</li> </ul>		<p>[技術・家庭]</p> <p>私と家族・家庭と地域</p>	
9月		<p>◇主題名 母の心のおい</p> <p>資料名「母よりの年賀状」</p> <p>ねらい</p> <p>父母の愛情に感謝する心情を深め、自分が家族にとってかけがえのない存在であり、家族の一員としての役割を果たし、充実した家庭生活を築こうとする自覚を高める。</p>	<p>[社会]</p> <p>家族制度</p>	
10月	<p>[学級活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各行事で親からの感想をアンケートでとり、共通の話題で話し合う。</li> </ul>		<p>[総合的な学習]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育</li> </ul>	
3月	<p>[学級活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業式に親への手紙を書く。</li> </ul>	<p>◇主題名 生命の尊重</p> <p>資料名「お母さんへ」</p> <p>ねらい</p> <p>親子の情愛を通して、生きていることの素晴らしさと精一杯生きることの大切さに気づき、かけがえのない生命をいとおしむ心情を養う。</p>		

## 6 本時の指導

### (1) ねらい

父母の愛情に感謝する心情を深め、自分が家族にとってかけがえのない存在であり、家族の一員としての役割を果たし、充実して家族生活を築こうとする自覚を高める。

### (2) 展開

段階	時間	学習活動と主な発問	予想される生徒の発言や心の動き	指導上の留意点
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>年賀状がどのようなものかを考える。</li> <li>資料を範読する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新年の挨拶を伝えるもの</li> <li>お世話になっている方へ、感謝の気持ちを伝えるもの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>題名に着目し、本時の学習への意欲を高めたい。</li> </ul>
展開	前段 32分	<ul style="list-style-type: none"> <li>「わたし」がおかれている状況を整理し、確認する。</li> <li>「わたし」の心情について考える ○泣きながら芋をかじった「わたし」はどんな気持ちだったか？</li> <li>○無言でじっと耐えている父と懇願する目に涙が光っていた母をののしる「わたし」はどんな気持ちだったか？</li> <li>○母よりの年賀状を読んだ「わたし」はどんな気持ちがかこみ上げてきたのか？</li> <li>○「わたし」が今年もまた帰りたいと思っているのはなぜだろうか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>熊本県天草島鬼池村の出身</li> <li>8人兄弟・米は年3回</li> <li>普段はさつま芋か麦飯</li> <li>お米の握り飯と卵焼きを楽しみにしていたのにどうして。</li> <li>友達に見られるのが恥ずかしい。</li> <li>みじめだ。</li> <li>わたしは夢を叶えるために自分なりに努力していたのに悔しい。</li> <li>親はもっと頑張るべきだ。</li> <li>わたしは自分の夢を叶えさせてほしかったと思う。</li> <li>一生懸命に頑張ったのにどうしようもないのか。</li> <li>申し訳ない。</li> <li>苦しかったのは自分だけではなかった。</li> <li>家族を苦しめてしまった。</li> <li>なんて自分は自分勝手だったのだろう</li> <li>大人になっても帰りたい場所。</li> <li>心の支えになり、元気や安らぎをくれる場所。</li> <li>かけがえのないもの。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時代背景などの状況を確認し、主人公の立場を理解させたい。</li> <li>主人公にとってどれだけ重大で胸に刻まれている出来事なのか気づかせたい。</li> <li>主人公の気持ちに共感させたい。</li> <li>年賀状から母の愛情と感じた「わたし」の姿に気付かせたい。</li> <li>時間を経ても変わらない家族のあたたかなつながりに気づかせたい。</li> </ul>
	後段 3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分にとって家族とは何かを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>反抗期であるこの時期に親と衝突したことや反発したことを想起し、その中でも親の愛情を感じたことを思い出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の経験を思い浮かべさせ、自分がかげがえのない存在であることを自覚させたい。</li> </ul>
終末	終末 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族からの手紙を読む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族からの手紙を受け取り、読む。再度親の愛情を感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手紙のない生徒への配慮。</li> <li>今反抗期である生徒への配慮。</li> </ul>

7 資料分析表

資料「母よりの年賀状」 主題『4－（6）母の心のおい』

主な場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしが中学校に入学した春の遠足。泣きながら芋をかじった場面。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の高校への進学をあきらめるように言われた主人公が両親を強くののしる場面。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元旦の床の中で主人公が母よりの年賀状を読み、声をあげて泣いた場面。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人になったわたしが反抗期の子どもたちを連れて、母の待つふるさとへ帰る場面。</li> </ul>
主人公の意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お米に握り飯と卵焼きを楽しみにしていたのにどうして。</li> <li>・とても悲しくて涙が出る。</li> <li>・とても恥ずかしい。</li> <li>・裏切られたような気持。</li> <li>・友達に知られたくない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生の勧めや友人たちの励ましを力に変えて、目標に向かって頑張ってきたのにどうして。</li> <li>・自分の希望通りの高校に行かせてほしい。</li> <li>・自分の進路は自分で決めさせてほしい。</li> <li>・家に経済力がないからこうなるんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のためにお母さんを困らせてしまった。</li> <li>・お母さんはこんな気持ちでいたのだ。</li> <li>・お母さんの気持ちも考えないでごめんなさい。</li> <li>・お母さんはずっと自分のことを考えていてくれたのだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母に会えるのが楽しみだ。</li> <li>・自分も二人の子どもができて母の気持ちがようやく分かってきた。</li> <li>・はやく家族にあいたい。</li> </ul>
学習者の意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わたし」がかわいそう。</li> <li>・友達に見られたら恥ずかしいだろう。</li> <li>・「わたし」がみじめだ。</li> <li>・楽しみにしていたことがなくなるのはつらいだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一生懸命に勉強してきたのに、行きたい学校に行かれないでかわいそうだ。</li> <li>・先生の勧めもあって「わたし」は努力したのだと思う。その努力が無駄になってしまう。</li> <li>・友達と目標に向かったのに友人と離れてしまうのがかわいそうだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わたし」は自分のわがままな事に気が付いたのだ。</li> <li>・「わたし」のことをお母さんはずっと考えていた事を「わたし」が気づいて良かった。</li> <li>・「わたし」が行き場のない気持ちから、家族に口もきかなかったことは、やはり家族を傷つけることなのだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人になっても帰りたい場所。</li> <li>・心の支えになり、元氣や安らぎをくれる場所。</li> <li>・かけがえのないもの。</li> </ul>
意識の焦点化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この時主人公は母のつらさが理解できずにいた。しかし、主人公が「一生忘れられないもの」と記憶していることから当時の重大な出来事だったことを確認する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母の涙を見てもあきらめきれないやり場のない主人公の気持ちをとらえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の希望や願いをかなえようとするより、思いの強さ故に親に当たってしまった主人公が母の愛情に気付くきっかけとなる場面であることを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を経ても変わらない家族のあたたかなつながりに気づかせたい。</li> </ul>
主な発問	<p>○泣きながら芋をかじった「わたし」はどんな気持ちだったか？</p>	<p>○無言でじっと耐えている父と懇願する目に涙が光っていた母をののしる「わたし」はどんな気持ちだったか？</p>	<p>○母よりの年賀状を読んだ「わたし」はどんな気持ちがこみ上げてきたのだろうか？</p>	<p>○「わたし」が今年もまた帰りたいと思っているのはなぜだろうか？</p>

# 母よりの手紙

熊本県の弧島

戦後の食糧難

零細農家

八人兄弟

米は年三回

中一の遠足

泣きながら辛をかじったわたし

場面絵①

市内への進学

あきらめてくれ

ののしったわたし

場面絵②

元旦の朝

年賀状を読んだわたし

場面絵③

現在

今年も帰りたいと思うわたし

場面絵④